

《結果の抜粋と掲載ページ》

■調査概要	2ページ
■水道水に関する意識／東京・大阪・中京圏	
【水道水への評価】	
◇水道水の評価は10点満点中7.05点	3ページ
◇飲用としての水道水の評価は10点満点中6.83点	3ページ
◇水道水への不満、「特にない」が4割超 「料金が高い」「おいしくない」は減少傾向	4ページ
【水道水の飲用実態】	
◇ふだん家庭で飲んでいる水は、約7割が「水道水」	4ページ
◇最も飲んでいる水は、2割超が「市販のボトルドウォーター」	4ページ
◇水道水の飲用方法、6割超が“そのまま”では飲まない 東京圏では「浄水器/整水器を通す」が最多	5ページ
◇飲用方法別の水道水の評価は、「そのまま飲む」人ほど高得点	5ページ
■水と災害／東京・大阪・中京圏	
◇不安に感じる水の災害トップ3は「台風」「水不足」「断水」	6ページ
◇半数近くが「給水制限」で水のありがたさを感じる	6ページ
◇災害時に対する水の備え、「何もしていない」人が増加	7ページ
■日常の水意識／東京・大阪・中京圏	
◇節水意識の世代間格差縮まらず…20代と60代で約20ポイント差	8ページ
◇水にかかわる経験・認知率が低下	8ページ

【調査概要】

第19回(平成25年度)「水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,500票
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成25年6月6日(木)～6月12日(水)
- ◆回収数(人) :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		小計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
30代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
40代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
50代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
60代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
合計	250	250	250	250	250	250	750	750	1,500
	500		500		500				

参考 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、食酢の醸造を社業の中心としてきました。食酢の醸造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたと言っても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものでありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターを活動拠点に研究活動、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、「使いながら守る水循環」を学ぶ市民参加型ワークショップ「里川文化塾」の実施など、様々な活動を行っています。「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。